（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	さわやか愛の家せとうち館			
○保護者評価実施期間	2026年　10月　2日	～	2026年　11月　9日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	21	（回答者数）	16
○従業者評価実施期間	2026年　10月　2日	～	2026年　10月　30日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	5	（回答者数）	5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年　11月　10日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童の多様な状態に対応できる環境と個別的支援	・古民家構造を活かし、目的に合わせて部屋の使い分け（静養室・クールダウン用個室など）を実施している ・心理士が配置されており、必要に応じて専門的な個別支援や環境調整への切り替えを展開している。	・外からの視線を防ぎつつ採光を確保できるレースカーテンの導入など、居住性とプライバシーを両立させた環境調整を行う。 ・集団活動への参加が難しい場合でも、個別アプローチや環境調整をあらかじめ活動計画に組み込む体制の構築を行う。
2	丁寧な支援計画策定と保護者との高い信頼関係・コミュニケーション	・アセスメントや更新時に面談を行い、保護者のニーズや将来の目標を反映させた支援計画を作成している。 ・メッセージアプリ等を活用し、日々の様子や課題をタイムリーに細かく共有している。	・計画更新時に目標達成度やお子様の成長・変化を客観的視点で評価し、振り返る時間を十分確保する。 ・送迎時や短時間のやり取りにとどまらず、連絡帳やアプリでの報告内容を具体化し共有体制を強化する。
3	全社的な安全管理・緊急時対応マニュアルの整備	・全社共通のマニュアルに基づく定期研修を実施している。	・事業所内に事故防止・防犯・感染症等のマニュアルを常備し、保護者への周知徹底を図る。 ・火災・地震・風水害等を想定した避難訓練を月次で実践的に継続し、児童の防災意識を高める。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域社会との連携・交流機会の不足	・日常の支援プログラムや事業所内活動に注力している反面、外部・地域行事への参加や他施設との交流機会の設定が限られている。	・地域施設や外部団体との交流機会、保護者・きょうだいが参加できるイベントの計画的な実施する。 （今年度は愛の家4事業所合同のクリスマスマーケットを１１月に開催する） ・モニタリング時に限らず、定期的に関係機関と情報共有を行う体制を強化していく。
2	組織的な目標設定・振り返り（PDCAサイクル）および支援記録の活用不足	・日々の申し送りや振り返りは行っているものの、事業所全体の目標設定や定期的な振り返り、記録の検証・改善への還元が不十分である。	・PDCAサイクル（事業所目標の設定・定期評価）を確立する仕組みづくりを行う。 ・日々の支援記録や会議内容を整理・分析し、支援方法の検証や計画の具体的な改善に活かす体制を再構築する。
3	混雑時における職員の配置・見守り体制および連携の偏り	・時間帯や利用者の状態によってマンツーマン対応が必要な児童が重なり、見守りや安全管理の手が手薄になる場面がある。	・時間帯ごとの人数配置やプログラム全体の流れを見直し、特定時間での密集や手薄を防ぐ調整を行う。 ・支援開始前の役割分担・行動確認の徹底と、トラブル発生時の振り返りによる具体的な未然防止策の共有を全職員で行う。

（別紙４）

公表　保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	さわやか愛の家せとうち館

公表日 2026年11月13日

利用児童数 27名（うち11名は兄弟）　　回収数 16

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	12	2	1	1	狭く感じます。 クールダウンできる部屋はあるが、1階が密集しているように感じる。	各時間帯のお子様の人数配置やプログラムの流れを見直し、特定の時間帯に過度な密集が生じないよう、施設計画全体での調整・検討を継続してまいります。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	11	3	1	1		個別課題やグループ活動、クールダウン時など、お子様の状況や配慮事項に応じた職員の連携・固定配置を実施し、常に目が行き届く体制を徹底します。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	10	1	4	1	古民家なので仕方ない部分もあると思う。	建物の構造上、部屋の区切りが曖昧になりやすい点を補うため、机等の配置や視覚的表示によって「どこで・何を・いつ行うか」がお子様にとって一目でわかる工夫を強化していきます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	11	2	1	2	カーテンが閉めきってあり暗いです。埃も気になります。	プライバシー保護および安全確保を図る目的でカーテンを使用しております。今後は、外からの視線を守りつつ自然光を取り込めるレースカーテン等の活用や開閉具合の調整を行い、プライバシー保護と室内空間の明るさを両立させていきます。 毎日の清掃チェックリストを見直し、床面だけでなく、カーテン周辺・棚の上・部屋の隅・エアコンフィルターなど、ホコリが溜まりやすい箇所への清掃・除菌作業を強化・徹底いたします。
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	12	1	0	3	子ども同士のトラブルがあった時には丁寧に説明して欲しい。 先日の報告の際も、内容が感想ではなく紐かく本人を見て分析してくれていると感じた。 子供が他の子供に押された時にすぐに対応出来ていなかった。	単なる事実報告にとどまらず、お子様の気持ちの整理をどのようにサポートしたか、また今後同様の場面でどのような予防・支援を行っていくかまでを具体的にお話しし、保護者様に安心してご提示できるよう努めます。 トラブルや見守りの遅れが生じたケースについては、職員全体で振り返りを行い、「なぜ対応が遅れたのか」「どう配置・対応すれば防げたか」を具体的に検証して全員で共有します。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか 。	10	2	0	4		定期的な個別支援計画作成・更新の面談時において、事業所の全体支援プログラムがお子様一人ひとりの個別目標にどのように落とし込まれているかを、より丁寧にご説明いたします。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	14	0	1	1		計画の期間終了時や更新時には、設定した目標に対する到達度やお子様の変化・成長を客観的な視点で評価し、保護者の皆様とともに振り返る時間を十分に確保します。
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援 」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	12	2	0	2		個別支援計画の作成時において、設定した各目標・支援内容がどの支援領域に対応しているのかを明確にし、具体的な支援方法や配慮事項を保護者の皆様と共有します。
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	12	1	0	3		日々の小さな変化や目標に向けたステップアップの様子をタイムリーにご報告し、計画に沿って着実に支援が進んでいることを実感していただけるよう努めます。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	13	1	0	2	身体を使う活動をしてほしい。 とても良い刺激になっていると感じる。	限られた空間や天候に左右されないよう、サーキット運動やリズム遊び、バランス感覚や体幹を養う感覚統合遊具を取り入れ、室内でも楽しみながらしっかり身体を使えるプログラムを強化します。 工作・調理・運動・外出など、季節の行事やテーマに基づいた新しい体験をバランスよく組み合わせ、多様な刺激を得られる工夫を継続します。
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	1	2	6	7	別になくても良い 多分ないと思う。しかし、無くても特に困りません。	事業所内での日々のプログラムや集団活動を通じて、順番交代やコミュニケーションなど、子ども同士の関わりの基礎を丁寧にサポートしてまいります。将来的な地域生活への移行や、他者との関わりを広げたいという個別のご希望・必要性が生じた場合、ご家庭とご相談の上で段階的な交流の機会をご提案・調整いたします。
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	14	1	0	1	なされていると思う。	今後も保護者の皆様との信頼関係を第一に考え、透明性の高い事業所運営と安心できる支援の提供に努めてまいります。
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	10	4	0	2		面談当日に初めて計画書を見ることで生じる戸惑いを防ぐため、必要に応じて事前にお伝えする概要を共有するなど、丁寧な合意形成を図ります。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	7	4	2	3		子育てに役立つ豆知識、家庭でできる関わりのアイディアなどを月１回の心理士によるコラムにて配信しております。今後、必要に応じて保護者の皆様のお悩みや興味関心に合わせたテーマでの小さな勉強会や交流の場を企画・検討してまいります。

保護者への説明等	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	12	2	1	1	子供の受け渡しの時の先生が誰かにもよる。詳しく伝えてくれる先生もいれば、そうでない先生もいる。	送迎時の混雑や短時間でのやり取りにより口頭で十分なお時間が取れない場合でも、連絡帳や連絡ツール等に具体的に記載し、ご家庭でしっかり状況を振り返っていただけるよう報告の充実を図ります。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	15	1	0	0	面談はある。週1の利用のため、助言が難しい場合もあると思う。	事業所にいる時間だけでなく、ご家庭や他機関での過ごされ方も伺いながら、短い利用時間でもお子様の全体像を的確に把握できるよう努めます。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	11	3	0	2		お迎え時や面談時、お電話等において、単なる連絡事項の伝達にとどまらず、保護者様が日頃感じられている悩みやご要望にじっくりと耳を傾ける姿勢を大切にします。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	3	2	6	5		今年は、愛の家合同でクリスマスマーケットの開催を予定しております。今後も、事業所イベント等において、ご利用中のお子様だけでなく、ごきょうだいやご家族皆様で一緒に楽しめるプログラムを計画的に取り入れます。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	12	1	0	3		送迎時や日々の連絡ツールはもちろん、定期的・随時の面談などを通じて、保護者様が「こんなことを言ってもいいのかな」と躊躇することなく、いつでも不安や要望を口にできる温かい関係性を構築いたします。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	12	3	1	0		送迎時の混雑などで十分なお時間が取れない場合や、直接お会いできない場合でも、連絡帳やメッセージアプリ等のツールを活用し、重要なお知らせやその日の様子が確実にご家庭へ届く仕組みを維持・強化します。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	13	1	2	0		引き続きブログやSNSで情報発信を続けるとともに、「SNS等の確認が難しい」といったお声にも配慮し、個別のメッセージや書面でのお便り等でも発信してまいります。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	14	0	0	2		今後も、ご利用契約時や重要事項説明時にお渡ししている「個人情報の取扱いに関する同意書」や「プライバシーポリシー」の内容について、分かりやすくご説明するとともに、あらかじめ保護者様からいただいた同意の範囲内でのみ使用することを徹底いたします。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	12	2	0	2	マニュアルがあるかどうか分からない	保護者の皆様がいつでも自由に閲覧できるよう、事業所玄関に各種マニュアルの原本（事故防止・緊急時・防犯・感染症対応など）を常備しております。今後、ご契約時や面談の機会にもお知らせし、周知徹底をしていきます。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	14	0	0	2		今後も火災・地震・不審者侵入・風水害など、様々な事態を想定した避難・救出訓練を毎月計画的に実施し、お子様が慌てず安全に行動できるようスモールステップで防災意識と行動力を育みます。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか 。	11	3	0	2	子どもの安全を確保するための計画が何なのかがよく分かっていません	安全計画について、契約時や面談時にお知らせし、周知徹底をしていきます。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	10	3	0	3	以前子どもが突き飛ばされた際に、先生がお相手の保護者の方にその場で出来事を伝え、その時に保護者の方が私に謝罪をされました。迅速に対応(保護者への共有)をして頂いたのは嬉しいですが、先生からの謝罪で充分だった気もします。	お子様同士のトラブルや怪我につきましては、監督・配慮が不足していた当事業所の責任として、職員が主体となって発生状況・背景の説明、指導・見守り体制の振り返り、および丁寧な謝罪を行ってまいります。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	11	2	0	3	とても楽しそうです。	今後も、お子様にとって「安心して自分らしく過ごせる」と感じられる温かい場所であり続けられるよう、職員一丸となって環境調整と支援の質の向上に努めてまいります。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	12	2	0	2	とても楽しそうにしている。 いつも色んな遊びやイベントをしていただきありがとうございます。毎回とても楽しそうに通っています。	今後も、小さな達成感やスモールステップでの挑戦を共有し、お子様自身が「認められている」「楽しい」と実感できる肯定的な声かけを徹底いたします。
	29	事業所の支援に満足していますか。	12	2	1	1	いつも楽しみにしています。不安定な時も、その子に応じて配慮して下さり感謝しています。ありがとうございます。 思うところもある。が、一生懸命に子供と接してくれていると思う。	今後も、保護者の皆様とお子様の声に誠実に耳を傾け、より信頼される放課後等デイサービスを目指して改善を重ねてまいります。些細なことでもお気づきの点や改善のご要望がございましたら、いつでもお気軽にお知らせください。

（別紙５）

公表　事業所における自己評価結果

事業所名	さわやか愛の家せとうち館

公表日　2026年　11月　13日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	0	2階での運動時は人数調整を意識しています。 目的に合わせて部屋の使い分けができる環境があります。子どもの余暇活動に合わせて部屋を分けたり、のびのび過ごしたりすることができています。	活動に支障はないが、活動内容によってはスペースが狭く感じられるため、空間の有効活用を工夫する必要があります。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	3	2	マンツーマンが必要な際は、他児をまとめて見守れる集団ゲームに誘導するなどしている。	子どもの特性やその時の情緒の観点で子どもと職員が1対1で関わることが望ましいケースが職員の人数より多い日があります。人手が足りなかったり、十分な支援をしにくかったりすると感じることがあります。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、 事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、 環境上の配慮が適切になされているか。	3	2	おおむね玄関以外バリアフリーになっており,鍵も利用しながら工夫しています。 建物の階段など、体の発達度合いによってはバリアフリーではない場所もあるが、職員が補助をするルールを作るなどの対応をしています。	子どもが安心して過ごせるよう、物の配置や視覚的な表示など、障害特性に応じた環境整備を進める必要があります。 古民家であるため階段など物理的に難しい部分があります。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4	1	当番制で毎日掃除をしたり、こまめに壊れたおもちゃがないかどうかチェックするタスクがあったりして清潔や、安全に遊びやすくする環境が作りやすくなっています。目的に応じた部屋の使い分けができる建物構造のため、活動や自由遊びのジャンルに合わせて活動に合った空間を準備できる。	・支援時間中におもちゃが散乱してしまうことがあるので、スペースを分けたり床に不必要なものが落ちていないように支援中も整理整頓を心掛ける必要があります。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	0	布団があって子ども一人で使える部屋があり、クールダウンや支援中に体調不良になった子どもが実際に使っています。	環境は整っているが、その日の子ども全員の状況によっては見守りの職員や部屋が足りないと感じることもあります。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	4	1	支援内容や環境整備のことで、毎日の振り返りをして対策を考えたり、情報共有したりする時間があります。改善点はすぐに仕組みづくりや物の準備、声掛けの工夫によって改善しています。	毎日の会議で支援の振り返りやヒヤリハットの共有を行っています。一方、事業所全体の目標設定や定期的な振り返りが十分でないため、継続的な業務改善につなげる仕組みづくりが課題です。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0	年1回の保護者アンケートを実施し、窓ガラスの飛散防止フィルムや防止柵の設置など、寄せられた意見を改善につなげています。	保護者アンケートの機会に限らず、日ごろから保護者様の意向を把握して、業務改善につなげていく必要があります。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	1	予算や人員の関係で職員の意見全てを反映することは難しいが、毎日のミーティングで職員の意見や相談を共有する場があって、全員で対策について考えています。意見や相談を否定する職員がいないため、発信しやすい環境であります。	職員が意見を伝える機会はあるが、改善につながらない場合があるため、意見を具体的な改善策に反映する仕組みが必要です。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	5	本社内の内部監査室における内部監査が、2026年２月４日に行われました。	本社による内部監査は行われるが、第三者による外部評価は事業所単位では行われていません。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	0	月に一度研修があり、研修テーマに合わせてセンター長や専門職が講師をしています。安全に関することや、質の高い支援に繋がる技術的なことなど幅広く研修しています。	むしろ多いと感じる程です。 社内研修を定期的に実施しているが、内容の充実に加え、外部講師による専門的な研修を取り入れるなど、支援の質の向上につながる機会の確保が必要であります。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5	0	子どもの実態や法律等で決められた支援内容に合わせて個別支援計画や日々のレクの計画を作成しています。	今後も、事業所の支援方針や具体的な取り組みが保護者に分かりやすく伝わるよう、内容の見直しを行います。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5	0	計画更新のタイミングでアセスメントを行い、保護者のニーズや子どもの将来の目標を反映させた支援計画を作成しています。専門的支援もニーズに合わせてさかんに行われています。	今後さらに学校での様子、家庭での様子、相談支援事業所からのモニタリング情報など、異なる環境での行動データを突き合わせて分析する必要があります。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4	1	職員の意見や、情報共有を踏まえて作成されています。作成した支援計画を職員全員で確認しています。	子どもの日頃の様子や支援上の課題を計画に反映できるよう、関係職員から継続的に意見を聞く仕組みづくりが必要です。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか 。	4	1	職員全員に共有されて、レクなどの日ごろの支援を考える際に子どもの実態や目標に合っているかどうか確認しながら支援内容を検討しています。	個別支援計画の内容は職員間で共有されているが、日々の支援に十分活かせていない場合があります。計画の内容を職員間で再確認し、実際の支援に反映できるようにする必要があります。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	1	子どもの様子から子どもの得意なことと苦手なこと、強化するべき支援を判断しています。心理士がいるため、ツールがあればフォーマルなアセスメントをすることもできる。	標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントについては要望もないため、現在のところしていません。

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5	0	ガイドラインに沿った項目でアセスメントを保護者や職員と行い、そのアセスメントをもとに支援計画や専門的支援計画を作成しています。	具体的な支援内容については、どの職員が見ても同じ支援が再現できるレベルを目指して作成してまいります。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4	1	おもに週単位で担当職員が立案しています。 担当者を中心に活動内容を検討し、必要に応じて他の職員の意見も取り入れています。	今後は、より多くの職員が意見を出し合い、子どもの特性やニーズに応じた活動を検討できるようにします。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	0	子どもが楽しみながら参加できるよう、活動内容に変化をつけています。 感覚→認知→製作→運動と週単位で活動プログラムと担当職員がローテーションして固定化しないよう工夫しています。	似た活動に偏ることもあるため、活動の種類や内容を工夫し、幅広い経験ができるようにします。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5	0	子どもの様子や支援計画に合わせてレクは集団活動か個人で参加するか調整されています。専門的支援として心理担当職員が個別に支援する仕組みもあります。	「集団参加が難しい場合は無理強いせず、別室またはフロア内の個室スペースで同様のねらいを持った個別アプローチに切り替える」といった代替手段・環境調整をあらかじめ計画に組み込んでおく必要があります。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	0	毎日のミーティングでレクの内容や職員の配置について共有する場があります。	支援開始前に活動内容や役割分担を確認しているが、十分に確認できていない日もあります。職員間で共通認識を持ち、円滑に支援を進められるよう、確認を徹底する必要があります。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	0	前日の支援の振り返りを毎日しており、その中で子どもの様子の共有や相談をしています。	送迎の関係により、翌朝のミーティングにて行なっています。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4	1	子どもと職員や他児とのやり取りやその時の状況など細かい点も記録に残しており、支援の検証や改善がしやすいようになっています。	日々の支援記録を作成し、打合せの録音内容などもまとめているが、記録を支援の検証や改善に十分活用できていない。記録から課題や効果的な支援方法を整理し、今後の支援に反映する必要があります。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	0	半年に一度モニタリングをして、子どもの様子の変化に合わせて計画の更新をしています。	長期的な展望を見据えながらも、より短いスパンでの達成目標の修正や変更なども柔軟に対応してまいります。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「４つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	4	1	支援計画やレクの企画書が4つの基本活動に対応したものになっています。	日常生活に関する活動や遊び・休験活動を行っているが、活動内容が限られており、地域交流にも取り組めていない。子どもの興味や関心に応じて活動の幅を広げるとともに、地域との交流や社会参加につながる機会を設けることが課題であります。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5	0	職員が全て一方的に促すのではなく、レクのタイミングや遊び方等で子どもが自己選択できる部分も用意されています。	子どもが自分で活動を選択する機会を設けているが、十分でない場合もあります。子どもの意思や希望を尊重し、自分で選び、決定する経験を増やせるよう支援を工夫する必要があります。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4	1	管理者兼児童発達管理が職員の意見をまとめた上で参加しています。	関係機関との会議に職員が参加することはあるが、毎回ではない。子どもの日頃の様子や支援状況を把握している職員が参加できるよう、情報共有や参加体制を整える必要があります。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3	2	関係機関とこまめに情報共有をおこなっています。会議等があればすぐに情報を持って参加できるようにしています。	関係機関との連携は行っているが、支援に必要な連携体制は十分に整っていない。必要な情報を共有し、関係機関と継続的に連携できる体制を整える必要があります。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5	0	送迎時に学校での様子を聞いたり、デイでの様子を伝えたりしています。	必要に応じて保育所等訪問事業などの活用も検討しながら、学校との密な連絡や情報共有に努めてまいります。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4	1	管理者兼児童発達管理責任者が就学前の施設に見学に行ったり情報共有をしたりしています。	今後とも、必要に応じて関係機関とのやり取りを続けてまいります。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4	1	デイでの様子や、職員の対応と子どもの反応について引き継ぎ資料として移行先に共有しています。	必要な情報を整理し、スムーズな移行が出来るように体制を整えてまいります。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか 。	2	3	研修には参加しているが、研修の時間帯によっては参加できないものもあります。	専門的な助言や研修を受け、職員の知識や支援技術の向上につなげられるよう、連携の機会を確保する必要があります。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	4	1	地域の公共の施設に出かける機会は頻繁ではないがあります。そこで地域の子どもと道具を譲りあって遊ぶ機会があります。	地域の子どもと交流する機会は頻回には設けられていない。子どもの社会経験や地域とのつながりを広げられるよう、地域の施設や団体との交流機会を検討する必要があります。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	4	1	管理者が参加しています。	協議が必要な議題などを積極的に提案し地域の一員として役割を果たしてまいります。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5	0	送迎時にその日の様子や家での課題等を共有して、その内容に沿って支援を工夫しています。またメッセージアプリを使ってタイムリーにやりとりをすることも出来ています。	日頃から保護者と子どもの様子について情報交換を行っているが、発達の状況や課題について共通理解が十分でない場合もあります。保護者の意向を丁寧に確認し、支援の方向性を共有する必要があります。

	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント･トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	3	ペアレントトレーニングに繋がる内容の保護者向けコラムを毎月配信しています。	家族への支援や情報提供は一部行っているが、家族支援プログラムや研修などの機会は十分ではありません。保護者が子どもへの関わり方を学び、家庭での支援に活かせるよう、情報提供や参加機会を充実させる必要があります。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	0	契約や、契約の更新のタイミングで口頭と書面で伝えています。	HPへの掲載だけでなく、多様な手法にて情報が確実に届く体制作りを強化してまいります。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5	0	支援計画やレクの企画書では子どもや保護者を主語にして利益が尊重されるように基盤の計画が作られています。 特に言語化が難しい児童には配慮しています。	より一層子どもの最善の利益の保障のために、意見を聞くだけでなく、どのようにすれば叶えていけるのかを考えます。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか 。	5	0	支援計画の作成にあたり、保護者の確認や同意を得ています。	より詳しく内容を説明したり、分かり易い項目設定にするなどの工夫を随時行っていきます。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5	0	面談や送迎時の申し送りの中で相談を受けて助言等をしたり、支援方法を変えたりしています。	どのように相談を行えばいいかなど、窓口を明確にし、より気軽にお問合せしていただける体制を整えます。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	3	2	夏休みに自由参観日を実施して、保護者同士が交流できる場を作りました。	参観日はあるが、保護者同士やきょうだい同士が交流する機会は設けられていない。保護者同士が悩みや情報を共有し、交流できる場を設けるなど、家族への支援を充実させることが課題であります。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5	0	内容はすぐに職員全員に伝達されて全員で改善策を考えています。	苦情への対応体制は整備されているが、保護者への周知や対応方法に不十分な点があります。苦情があった際に迅速かつ適切に対応できるよう、対応手順の確認と周知を徹底する必要があります。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5	0	ブログやインスタで日々の様子を発信したり、活動内容に応じで準備物等の説明も個別にしています。	活動や行事などの情報発信を行っているが、頻度や内容が十分ではない。子どもや保護者が活動内容や行事予定などを把握しやすいよう、定期的かつ分かりやすい情報発信に努める必要があります。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5	0	ブログやSNSに写真をアップする際には、職員が必ずダブルチェックを行うなど、個人情報の扱いには十分に留意しています。 個人情報の扱いについて会社で研修を受けてその内容を遵守しています。	法律に則った個人情報の使用はもちろんのこと、安心してご利用いただくための指針の強化を行います。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5	0	伝達の方法やタイミングや言い回しに配慮しています。	コミュニケーションツールの運用について、その子に合うものを試行錯誤しながら見つけていく必要があります。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	4	今年は11月に岡山の他事業所と合同でクリスマスマーケットを開催予定で、地域住民の方にもお声がけを行っています。	地域住民を招待するなど、地域に開かれた事業運営には取り組めていない。地域とのつながりを深め、子どもが地域社会と関わる機会を設けられるよう、行事や交流活動の実施を検討する必要があります。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4	1	全社共通のマニュアルに基づいた研修を受けて環境を整えています。	事故防止や緊急時対応などのマニュアルは整備されているが、職員や家族への周知、発生を想定した訓練が十分ではない。マニュアルの内容を職員間で共有し、緊急時に適切に対応できるよう、定期的な確認や訓練を実施す
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	0	会社全体としてしっかり出来ている	災害発生時に適切な対応ができるよう、今後も訓練内容や実施方法を見直し、実践的な訓練を継続する必要があります。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5	0	契約時に確認して職員全員に共有されています。	必要な情報を確実に把握し、安全な支援につなげられるよう、確認方法や職員間の情報共有を徹底する必要があります。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	0	医師の指示書に基づき対応しています。 また必要に応じて事前に保護者に確認を取るなどしています。	現在、完全除去等の対応を必要とする方のご利用はございませんが、今後そのような方のご利用があっても適切に対応できる体制を整えてまいります。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	0	全社共通のマニュアルに基づいた研修を受けて環境を整えています。	安全計画の内容や実施状況を定期的に確認し、職員への研修や訓練を充実させることで、安全な支援環境の確保に努める必要があります。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか 。	3	2	特に注意する点があれば家族に相談しながら配慮をしています。	安全計画に基づく取り組みについて家族への周知を行っているが、不十分な点があります。家族が安全確保に関する取り組みを理解し、連携できるよう、周知する内容や方法を見直す必要があります。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4	1	毎日ヒヤリハットを共有する機会があり、改善策を全員で考えて実施しています。	発生原因や対応方法を職員間で検討し、具体的な対策を実施することで、事故の再発防止につなげる必要があります。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4	1	全社共通のマニュアルに沿った研修をしたり、日々の支援の相談をしたりして適切に支援できるようにしています。	今後も、職員の虐待防止に対する理解を深め、適切な支援を行えるよう、研修内容や実施方法を見直し、継続的な意識向上を図る必要があります。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5	0	契約時や契約の更新のタイミングで口頭と書面で説明しています。やむを得ない状況をそもそも作りにくいように支援方法を工夫しています。	より綿密な状況の想定や、身体拘束解除までの道筋を明確に示すなどの体制を強化していきます。 フローの作成を法人で作成しています。